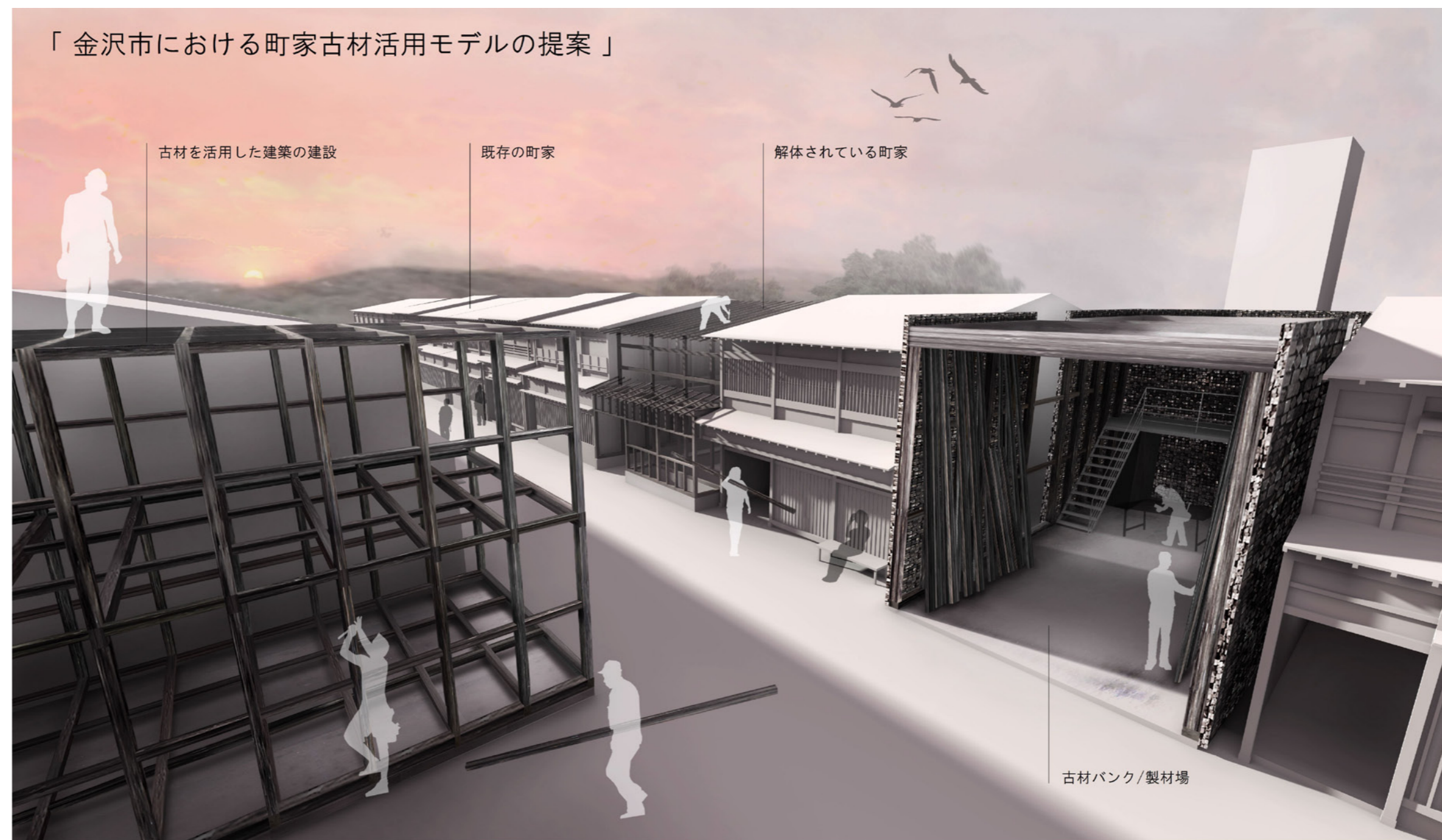


金沢市における町家古材活用モデルの提案

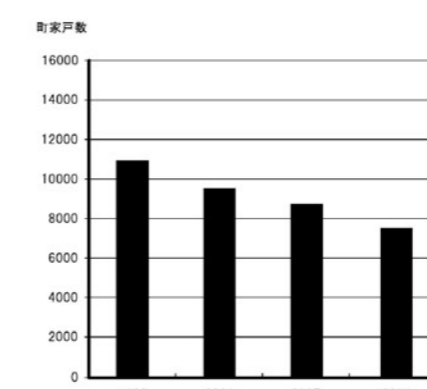
神田 謙匠、吉田 知剛(金沢工業大学大学院工学研究科建築学専攻博士前期課程)



□ 背景 / 目的

石川県金沢市では、町家の減少による文化的都市景観の喪失が深刻化している。この現状を食い止めるべく行政主導での支援策が実施されているものの、改善には至っていない。その背景には既成の金銭的な支援のみではまかなうことのできない、以下のような多面的な問題がある。

1. 町家の形式と現代のライフスタイルとのそご
2. 維持・保全への経済的困窮
3. 都市のスプロールによる中心市街地の居住人口の減少
4. 地権者への経済的な還元率の低さ

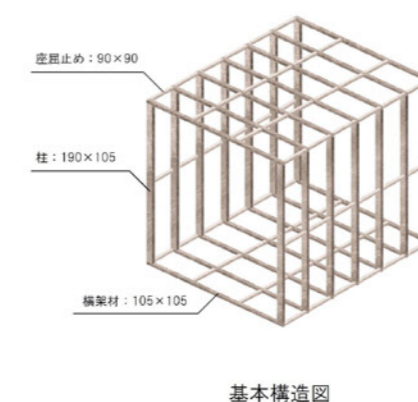


□ 町家現存数
参照: 『金沢町家継承・利用活性化基本計画』 金沢市 歴史建造物整備課

この現状に対し本案では、解体を受容した上での保存・活用へ向けた中長期的な支援スキームの必要性を提起する。町家解体に際して排出される古材を再利用可能な資源として着目し、この古材を用いて解体と保存、二律背反する両者を仲介する建築の提案をおこなう。

□ 古材の利用方法

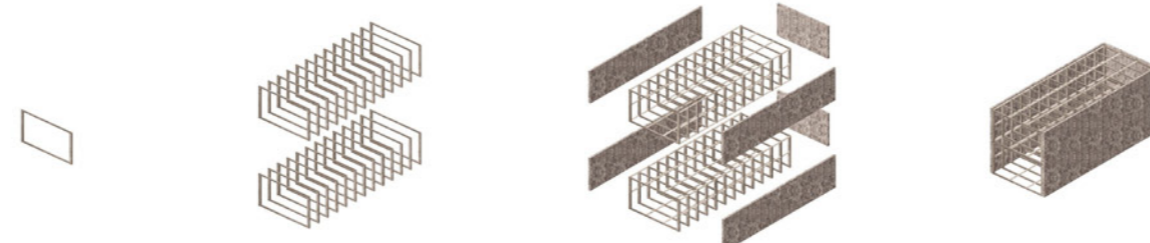
古材を用いた建築の提案をおこなうため、古材を構造材として再利用可能なものと、その他に分類する。構造材として再利用可能な古材は、工期及び工費の短縮を図るため、木質フレームとして加工する。古材同士はスチールコネクタによって繋結し、フレームを1m間隔で配置することで、モノコック構造として機能する。構造材に適さない規格の材は木片に製材し、外装材として利用する。木片は劣化に対応した入れ替え可能な機能的なディティールとし、使用後は透水系舗装材やリサイクル燃料としての二次的な利用が可能である。



□ 計画

町家の保存・活用へ向けた提案を行うにあたり、前述した問題に対して、「市民に対し、町家の解体状況や古材の魅力の中長期的に発信していくこと」「金沢市や地権者に対し、持続的な金銭的還元をおこなっていくこと」が必要になる。また古材活用を促していくため、古材を保管するストックヤード、及び製材を行う場が必要になる。以上の条件を満たす建築用途として、「古材バンク/製材場」をケースモデルとして計画する。

・ 構成図



審査委員コメント

金沢市内の古民家に着目し、町家古材の新しい流通を作ろう、同時にその過程にある町家をストックスペースにしてコミュニティとしても利用しよう、という積極的な提案です。

古材ストックヤードの開放や古民家の解体作業の見える化を積極的に行うと、古材の利活用に市民が楽しんで自然に参加できる、というところを評価します。

古材のヒバを用いた工法の提案もありますが、今後は、実際に解体や施工を行う工務店や行政機関との連携、ストックヤードの確保など、アイデアを実現するための様々な課題に具体的に挑戦していただきたいと期待します。